

関ヶ原軍記

初編 七

八

特
遠13
2207
4



特 13 遠 門
207
巻

池清

関ヶ原軍記初編巻之七

目録

- 一 秀頼大坂入陣の事
- 并 神君成瀬が物見の松子次
- 聞一召て大坂を立退の事
- 二 大坂勢
- 并 井仔直政膏名を顯す事
- 神君退走の事

和 漢

貸本所 東京牛込細工町 誠光堂 池田屋清吉

凡士農工商各業の職分家業を固て持用の只物を言ふ
 今日と管む夏世最一般の然る迄世写本の巻中小柳が白紙
 何れ種々の書入又飛ぶ賞券ありき水偶人感見は昔
 男女の陰翳を画き君臣父子の中やう面とあめ合
 同くあり是等ハ必竟一時の興小察しての戯遊かえん併
 其職分は違異ハ疵付り小癖と有り著述極く筆墨の得り
 何れも只言語と云其遇ちと智免巻中の戯画樂書等
 池田屋清吉は是を歎然と喜ばず固て承代りて諸君子御みる爾
 磨石山人識

池清



園ヶ原軍記初篇卷之七

秀頼大坂入城の事

并 神君 歎願が物足る指子と

聞 一 召して大坂を立退すの事

曰く 却て大坂を静置ありと

いふ者行と申せん 其れ中物騒
がく 故り 申す 依足る

要(ま)害(がい)の法(ち)間(かん)あつたをよして秀(ひ)頼(りやう)
大(お)坂(さか)入(い)城(じやう)志(し)るるをよき旨(こ)宗(そう)廟(ぼう)の
后(ご)お評(ひやう)定(ぢやう)む依(よ)りて正月(じやうげつ)入(い)城(じやう)
せり徳(とく)大(だい)名(な)清(せい)徳(とく)
泉(い)康(やま)公(こう)も大(だい)坂(さか)は内(うち)城(じやう)ありて
片(か)桐(きり)市(いち)正(せい)か宅(たく)事(こと)以(も)止(と)るあつり
このせり石(い)田(た)三(さん)次(じ)次(じ)孫(そ)累(るい)をよ
東(とう)恩(おん)文(ぶん)次(じ)討(とく)

幸(さい)ふんとする有(あ)終(しゆう)初(はつ)と成(な)績(せき)年(ねん)
人(ひと)正(せい)務(む)中(ちゆう)物(もの)見(み)るあり依(よ)
て内(うち)府(ふ)公(こう)も大(だい)坂(さか)城(じやう)清(せい)徳(とく)立(た)ち
有(あ)りて依(よ)りて入(い)所(じよ)の時(とき)送(お)送(しん)臣(しん)お
城(じやう)退(たい)拂(ひ)りんと仕(し)るる幕(まく)井(い)伴(はん)
名(な)部(ぶ)の補(ほ)正(せい)政(せい)内(うち)通(とう)ひり其(その)事(こと)
く膏(こう)威(い)をよあつりて其(その)事(こと)あり
徳(とく)人(ひと)これと威(い)をよあつりて其(その)事(こと)あり

世とのの騒がしき由る片桐
市正 大谷刑部少輔 二人
定手 及び 利家 長政 三
一変して 家康公伏見
千所 在陣 故 倭奸の者ども
其隙を窺ふといふ 紀大板 羽
の丸は 入所 山やうに ちやうと
右 是 飛 ねく 且 づう 此 所 人 救 へ

井伊直政 斗り 侍 供 あり 大
阪 西 丸 へ 所 在 城 あり 此 節 羽
必 大 名 とも 石 田 の 謀 計 へ 依 へ
百 拾 四 人 一 味 連 判 して 脱 へ
内 府 公 とも 受 首 へ 及び 南 へ 是
浮 雲 丸 甚 だ 中 あり
名 出 へ 曰 へ 凡 人 備 へ 此
その 益 あり 其 の 大 畧 哉

失却しつじやく 是こゝ へ 心こゝろ 士し 農のう 工こう 高たか
とりの小塔こたか 其その 役やく あり ます
碓すい 石いし 出い 衆しゆ 町まち 人ひと 百ひゃく 姓せい
より とも 其その の 根ね 元もと の 志ち 良ら
と ば 失し る ぬ 屋や 々々 心こゝろ 元もと を
主人しゆじん 子こ 結むす ぶ 下した の 子こ
づ ころ へ 隣となり の 事こと あり
竹たけ 々々 射や てる も 主人しゆじん の 事こと 也

片かた 時とき 毛も 忘わす れ ぎ ぶ ぶ 時とき の 白しろ 出で
の 用もち 子こ 立た ち の の 好この り 能よく 令しん
ば 人ひと 逐お ぐ 猶なほ 次つぎ 同どう 々々 竹たけ 々々
り 是こゝ へ 子こ 爲な ぞ 金かね 々々 岸かた 次つぎ
々々 々々 せん け 々々 之これ 結むす ぶ 子こ
る の 水みづ 々々 お の れ け 役やく 目め 々々
構かま り 心こゝろ 基もと 所ところ 子こ 出い 々々 矣や 鳥とり
次つぎ 盜たう 々々 吟ぎん 々々 心こゝろ 々々 子こ 又また

同多し何ぐも取ての邦
のるちあり武士も又邦の
如し知り言録國郡と
経りるも大小くうきうに
逆城城ちちつひの致場と
あおく所命と捨くえり
ら此又と武骨と震ひ謀
畧とあきく一し
片時も波

乃させまど記とあり
志るは致ひの道をば
くちあり一撮をして只
倭奸秘曲くんを月ゆる
くれとて心と一猶乃
奥島と秘くあぶとく
あり経るなり
内府公乃水原氏并伴直政

まのりとも逸物のかんは
なり又別人のおりお愛お
りしはまぐく人写し子
のり油郎まぐく心武
士のくをりりも限
ま町人高心と娘ひく
清くのみりりりりり
一生むいであるものあり

嗜むべきあり

去程より慶長四年正月新玉
れ喜とぬく結人万歳紙紙の
とく有行とやん世へのの
縁がく依見の城營清く
清官よりて大坂の城を築き
夫婦なりそのく穉子
り結く太閤の以達云々

けりしと仰せ置れりある
徳大急の屏一も大坂中
予建並べりきりきり
初更の入城ゆへに
正りし出大谷 浪那の支
人予徳トて魁ノ角列の子
伊予中一とんく右園の由送
とふおちらせして大坂予以移り

あまの首中徳ト正月十日
五老又存行お徳乃よ志りる
倉よりお極まりて秀頼々大
坂の城予入のあ
内府公も御々雑乞々二百人
かりり武士予小栗長右衛門
同く又市 安反帯刃 奴
年人正 樽屋守之丞 近反登

之御等城姫女として寵亮の
女へくおけ立りて又十人
斗り百連玉の大阪は山城
ある加刺の利家平の結搦ある
屋敷としてその孫子もより
志するに 家康公斗り
清屋浦も好く只伏見の御殿
むらり好り好く大阪入陣の

嘉永平のてきも我も
家康公 片桐市正が宿所
清屋浦へ行く 同く十二日
伏見の御殿は山城の管あり
然るともろ石田三成の
深くむらけ只今其内
内府公討奪んと名ひが
その時好も好り今

名お乃小野うしおを次を天
のあつらととらるんそね
世とびの討事りて秀頼一統
これ代と成り 永其権を奪りん
と鎌更ちとめと 十日の
晩より十日中彼と調略
友才俊前秀家とえと八郎
とて八才の時父と娘と太閤の

子分として候と生長れ
めをの内よりつと 権威
とえとん事と名と石田が
御とまふと大おとて秀吉
回好の臣也又倭奸の流るる
増田右衛門尉 長束大藏左衛門
小神木隆殿助 少御掾津守
安西守太政官とて凡そ

惣勢貳三万八千餘人
明十二日の朝出立有て
肉府公も依名一泊り終り越後
討奪すべしとお法調ひく
その用迄志きり之の
明十二日車馬等打立度
との手をはりあり
肉府公もらんを養ふも知り

あつた片桐さしに休島あり
捕れ共 肉府公も神樂
石島殿の 所名もして大坂
中物強が 疾中其の
刻子いり成瀬集人西次
百く唯今石田が居り
何う子孫もあるべしとお伺ひ
素久べしとの 上意あり

隼人正畏いそまうく郎時らうじ馬
 千打ちうのひる田が屋敷の前まへ後
 を窺びひるに軍か立まするの中
 見み極まりたれば急いそぶをせ踊りて
 りしらる極まる田を今も人
 軍か立ますに用もち急いそぶに出い立
 と明言あらせてお見みゆり
 ぶりり
 象ぞう康かう公こうも此時とき

のろろろより物を手に持て走り出す
 後ごを急ぐに河か津つ客きやくのあまりの気
 質しつ故このままに作しておくる
 の故影かげも切者きりをあれを軍か立ますに
 見みまりたらんが明あらせるの
 時ときに故影かげのままに
 上うまりの通りにゆりたまへて

る子 洞^{くわ}を仕^せりてより 半^{はん}時^じ後^ご
お^おま^まと^とを^を娘^{むすめ}と^と車^{くるま}と^として^{して}は^はさ^さま^ま
を^を手^て後^ごの^の出^でて^て 武^ぶ者^{しや}と^となり^{なり}し
孝^{かう}と^と二^に時^じ斗^とり^りの^のお^おま^まと^とり^り中^{ちゆう}に^に
屋^やに^に今^{いま}の^のま^まや^や新^{しん}車^{くるま}と^となり^{なり}し^しは^は
依^より^りて^て明^あ方^{ほう}と^と見^みま^まり^り中^{ちゆう}に^にと
い^いは^はれ^れた^たま^まは^は左^さと^と右^{みぎ}と^とに^にさ^さり^りし^し
自^じら^らし^しの^のま^まや^やと^となり^{なり}し^し

大^{だい}坂^{ばん}の^のま^まや^や船^{ふね}と^となり^{なり}し^しは^は
人^{ひと}探^{たず}ね^ねと^となり^{なり}し^しは^は依^より^りて^て
往^{むか}来^き此^{こゝ}に^にあり^{あり}し^しは^は依^より^りて^て
し^しと^となり^{なり}し^しは^は明^あ方^{ほう}と^と見^みま^まり^り中^{ちゆう}に^に
市^{いち}刻^{こく}の^のま^まや^やの^のお^おま^まと^とり^り中^{ちゆう}に^に
桐^{きり}濱^{はま}の^のま^まや^やと^となり^{なり}し^しは^は
先^まに^にあり^{あり}し^しは^は依^より^りて^て
家^{いへ}の^のま^まや^やと^となり^{なり}し^しは^は依^より^りて^て

御 比 命の 仰せ 換の 所 使
ひそ 雜人 并 び 小 津 馬 等 御
前 切 じ ゑ ち 知 ち ます こと あり
陸 地 ち と 牧 方 ち あり べ こと あり
と しく 御 年 ち 移 じ こと 出 立 有
て 換 等 ち の こと あり こと あり 船 ち
出 され こと あり 室 ち や 手 子 記
御 大 將 之 者 こと あり こと あり こと

一 多 くの 御 命 こと あり こと あり 靜 平
初 手 命 こと あり こと あり 見 せ ん こと あり
こと あり こと あり こと あり こと あり
御 命 こと あり こと あり こと あり こと あり
名 將 之 こと あり こと あり こと あり こと あり

大 坂 將 神 君 越 進 事
并 井 伴 直 政 常 威 事 記 事

既^まに^きに^んを^んを^ん明^{めい}が^んに^ん成^{じやう}
り^ん石^い田^{でん}小^{せう}船^{せん}等^ら時^じ分^{ぶん}の^ら
と^ら船^{せん}一^{いつ}合^{がっ}せ^しく^く斤^{しん}相^{さう}尺^{せき}屋^{やく}敷^し
と^らり^んと^ら空^{くう}船^{せん}ひ^ひら^らに^に
内^{ない}府^ふ公^{こう}ら^らを^をや^やと^と船^{せん}横^{よこ}雲^{うん}り^り
清^{せい}舟^{ふね}を^を依^よ見^みへ^へ物^{もの}り^りあ^あら^らし^し
と^と舟^{ふね}く^く石^い田^{でん}小^{せう}西^{せい}木^ぼの^の逆^{さか}心^{しん}の^の
人^{ひと}と^と大^{だい}の^の山^{さん}に^にお^おら^られ^れる^る終^{はつ}に^に

手^て延^{のび}り^りて^て名^な迹^{あと}一^{いつ}ふ^ふら^ら夏^{なつ}
れ^れ船^{せん}等^らさ^さら^らの^のこ^これ^れ全^{ぜん}く^く沖^{おき}の^の
より^{より}起^{おこ}り^りし^し之^{これ}を^を一^{いつ}ふ^ふら^ら小^{せう}船^{せん}
み^みく^く登^{のぼ}る^る船^{せん}の^のり^りふ^ふら^らと^とも^も
中^{ちゆう}に^に莫^{もく}し^しの^のる^るる^る也^{なり}名^なあ^あら^らし^し
追^お追^おり^りし^し石^い田^{でん}が^が衆^{しゆう}人^{にん}川^{がわ}津^つを^を馬^{うま}
と^と舟^{ふね}太^{たい}山^{さん}船^{せん}等^らさ^さら^ら高^{たか}野^の徳^{とく}中^{ちゆう}
等^ら被^ひえ^え武^ぶ士^し百^{ひやく}余^よ騎^き銃^{じゆう}砲^{ぱう}百^{ひやく}挺^{てい}

難名入百余人續ひく小細川
長が家入木戸佐藤の西
主殿外 義林主招おくれの彼是
之百余人又浮田秀家が從者明
石掃給外を大將とて子余人
部合武子余人名物え取敢て
難る市一の怒る建てして
追強より御湯舟もるる

りん〜 難名ひきり今一足
内府公決討者〜と走り
この時 家康公も州駕
なく集りてさや表を明
らん〜とさるるころ大坂の音あり
大勢此人喜味方も必定らんを
追人乃軍名取〜ん 足切
市下知るるふより成瀬隼人正

畏^うあつ^てく^る 船^{ふね}の^との^ちに^り 立^たり
急^ま度^ど見^み切^きて^は大^{おほ}喜^{よろこ}み^中に^けけ^り
乞^こ士^し三^{さん}子^し人^{にん}と^{して}只^{ただ}今^{いま}押^{おし}来^きり
此^こ牧^{まき}の^やを^も何^{なん}年^{ねん}急^ま急^まと^{して}
一^{いっ}款^{くわん}仕^しり^度の^いを^も此^こ侍^{しやく}の
めん^く用^{もち}急^まあ^れる^こを
丸^{まる}丸^{まる}一^{いっ}生^{せい}此^こ御^ごの^まを^も色^{いろ}の^ま
小^こ督^{とく}と^{して}素^{もと}札^{さつ}を^もり^子と^{して}

鉄^{てつ}炮^{ぱう}を^もり^款を^も護^ご武^ぶ者^{しやく}の^ま
その^まは^は恒^こ恒^こ裁^{さい}と^{して}今^{いま}の^ま
倉^{くら}を^もり^此の^まに^り
家^け康^{こう}公^{こう}危^き角^{かく}の^ま 侍^{しやく}も^もり^く
乞^この^まを^もり^大坂^{さか}を^もり^此の^ま
ま^まに^り此^この^まを^もり^と斗^{たう}り
侍^{しやく}を^もり^此の^まを^もり^と斗^{たう}り
立^たり^此の^まを^もり^と斗^{たう}り

子
急いそふといわぬ時又えめん
抑おさぐ所ところはさうらの赤あかき色いろの神かみ
あしと急いそして陣ま手て鑊くわく炮ぱう切きり
純ま塗ぬ美み子こ丸まる金かねの相あ存ふ長なが柄えの
錢ぜ五ご本ほん斗とり武者むしゃ百ひゃく金かね騎き牧ま方かた
むしと欠か部ぶり船ふね中ちゆう大だいいよ
發はふたち敵てき軍ぐんいさや先ま之の上うへり
うらか今いまいののがぬとさるあり

斗との船ふね中ちゆうそ自じ害がいせんも陣ま念ねん
ありと漏も息いきとつく斗とり之の
家け康かう公こう所ところ後ごとてげあく
あんどらうが抑おさぐ所ところくも在あり
あがり去さ那ながけ時とき勢せいの味あじ方かた
登のぼり矢やの味あじひあう所ところを
射やらうの足あし燈とう方かた境けいあう
めん子こ連れん色しきこれ秋あき毎まいと省しやうけ

て先一向ひとりとき
下より毛牧言れむ中より
あ武者一人のりて馬橋
友人のりて赤籠八幡大
堂薩と籠り見ゆると風
をのりて程々細の縄取の
馬市速りるり武者又十騎
をりりお籠りあつり小松原

のりておえあつり井俣と
捕直政と誰りの知るる
まる中井俣と赤鬼といひ
もを毛あつり手出とちと見て
あんの細織一れ程ひり白糸
城以くも急行し細の陣
羽織白糸を細もき八幡
毛といふ逸物手あつり老後

木^き殺^{ころ}古^こ作^さ 庵^{いん}原^{げん}清^{せい}右^う邊^への^の友^{とも}也^{なり}
手^て取^とつ^つく^く 牧^{かひ}方^{かた}提^ての^の駕^かり^りと^と
系^{けい}放^{ほう}し^し 七^{なな}手^て此^{こゝ}原^{げん}より^{より}平^{へい}伏^{ふく}し^し
て^て御^ご船^{せん}を^を遠^{とほ}く^く 幸^{あつ}ひ^ひ去^され^れば^ばこの^の
船^{せん}中^{ちゆう}此^{こゝ}人^{ひと}と^とい^いふ^ふ大^{だい}い^いひ^ひり^りち^ちり^り
と^と好^{この}く^く 井^い解^{かい}と^とか^から^ら者^{しや}是^{こゝ}に^に
知^しる^る日^ひお^お一^{いつ}の^の武^ぶ者^{しや}ぶ^ぶり^り中^{ちゆう}
と^とあ^あく^く 大^{だい}い^いひ^ひの^の威^いに^にり^り

家^け康^{かう}公^{こう}も^も 伊^い機^き嶋^{じま}より^{より} 以^い船^{せん}
より^{より}より^{より}玉^{たま}い^いの^の部^ぶに^に 浦^{うら}を^をや^や
く^くも^も系^{けい}り^りより^{より} 大^{だい}坂^{さか}の^の送^{そう}織^お原^{げん}
城^{じやう}邊^{へん}を^をと^とる^る志^しを^をく^くく^く 担^{たん}
中^{ちゆう}べ^へー^ーの^の 山^{さん}を^をこ^この^の 所^{しよ}
く^く 家^け康^{かう}公^{こう}を^を 直^{ちゆう}政^{せい}が^が 系^{けい}
馬^まの^の跡^{あと}八^{はち}麻^ま毛^{もう}千^{せん} 百^{ひやく}せ^せら^られ^れ入^い十^{じゆう}
騎^き此^{こゝ}の^のより^{より}より^{より}く^く 陸^{りく}地^ちを^を 飛^と

がぶとくに依るの城は
入河也井作を昂時一高智
れる一赤のり三百挺の銃炮
を三階張部して新馬市
城押して扱きりしもの
大坂勢も大まう一發して伏見
より直政が所逐ひし事あり
し退く軍急電もさうさう
款

千そのそまありてらうある
トと退人の急電ありし
えたり直政も日暮まで急返
お守り志願うふし見
取たり天晴忠徳といひ常略
といひ吳本朝も稀如
後下河といふも能事下城
りちるふ 家康公うめ

大坂もそもこれを感^えせり故
石田が討^う人^てもと危^いく立^た後
軍^のの^に跡^をねんあ^がく^くま^り時^に
幕^ももあ^らく^くま^りと随^ひ分^り
この^うび^に此^の討^つ故^き多^く沙^は枝^を記^す
や^うし^よし^んど^も諸^大名^并
平^平徳^人も^もこ^を色^をと^しる^志あり
と^いふ^者先^づ知^るぬ^振て

と^いふ^者先^づ知^るぬ^振て
[池清]

実ヶ原軍記初篇巻の七 [池清]

池清

関ヶ原軍記初編卷之八

目録

- 一 家康公ノヤシキ井伊直政ノナカマサは御加増ノカゾウの事
- 并 行相ノヨリ且元ノヨシが計ノハカリひし依ノヨリく
- 家康公大阪ノオサカ西ノニシの丸居ノマルイ任ノトク居ノイの事
- 一 石田三成ノイシダ謀略ノマウリョク諸大名ノモロノナメ連判ノマシの事
- 并 家康公は拾七ノトコヶ條ノジョウに難題ノナンダマあり

中へくる事

油漬

関ヶ原軍記初篇卷之八

家康公ノヤマシ 井伊直政イヱナオキは内和増ウチワゾウの事

并ナリ行相イキナウ且ナ元ノ計ハカリらしひも依よて

家康公大坂オオサカ御ミ免マケは御ミ任トク居イの事コト

去程キヨウは 徳川家康公トクヰノケノヤマシより

危ヤブきしりしりし 涉シ難ガタ候ウケを以もつて進マん者て

伏見フシミの城シロへ入イりまひてるの事コト

井伊直政を 百出され程又々
泉寺木殿 彦宗おとも 御前
百あさるは麻 依んよる松平主殿
助同く隠岐さ 内度孫次在場
等の西く在青よて居あれ
は人とも 所前は出せ度
凶変沖各魁の忍懐致り
らる 泉康公の御意あり

直政が弓矢のむねたる度申
たしうあ尼もらとの西獲英
上野修那願或百石の加増を
給ひそのさびれ賞の玉那
智魁 二百石よそわ井伊
騎るの胴料あり去れはる
多く持く軍用よま
よの 山さるあり依て井伊泉

今の今一と仰りても、
くわちて軍用として
いそれあがりまゝこの時
自殿物中しるのむと
が謀畧よく所の如く
知色とらふを南地を
り又と軍勢と百明あひて
うひと変せらるる

るる 家康公仰せ
この所と退るべく
くしりまゝに
をひりし
知るる者又
まら人も
敵を
其随分

沙汰那ーあくる人のそら
も能くおちりにまきやきなり
又是より暖か度も三交も免
うさるるあまべさるり所事
とのあふ根不心好よと
舟出さるる仍て魁角此沙汰
もあつくい歌の乳明もあう
海れ者このる中板中此雑

せつとるつと徳大為このるび
皆と新造人誠をより強く
を冥車かると又も大坂守と天
下此風流通るりて志何り
あつてつとつと斤桐布正の地
後を歌あて浅野大谷等なり
徳トつらつら下下の風流の
年とく

徳川どの

依見^り居^るあ^らひ^く下^に此^の法^を
今^も内^務公^の西^下知^る所^に
う^つく^て依^見と^大板^を別^く之^を
昔^に利^家の^南大^板に^居あ^らは^し
ゆ^ゝあ^らは^し此^の風^流あ^らは^しる^所急^に
内^務公^大板^にま^きあ^らは^し
路^を振^り入^りま^して^一所^に
居^るあ^らひ^く法^を今^も依^見も^あら^はし^る
也

と^は是^の法^を入^りま^して^一所^に
始^り法^を得^る所^に
家^康公^在大^板せ^らら^しま^して^一所^に
斗^をら^しま^して^一所^に
頼^りま^して^一所^に
能^くし^る所^に法^を得^る所^に
法^を得^る所^に
家^康公^生

約徳承の友人越前守中
ふらら太閤御在世におくく
天下は法令も

家康公の御ころありまされ
むくまに在伏見よして下
別々ごごごごごごごごごご
伏見へお伺げし及び御
あるのまじりて天下は風流

若く止まり候く大坂御の丸
小縁御殿と菅清左衛門
糸川初年此秀頼の御後見と
恙れ太閤の御遺言とあり
ありて安穩の候と
あふりるるがそ御干大坂城へ
御入り御色りありとも
思存又奉行中老等おのく

まぐさちありされを隠居し
もせむんば辭退するま叶
居りしゆり左様あるは倭人
是れ為し追出れしりし評判
しそし手又法大名のうも
あも 家康し入魂の人
もまぐされば牙櫛ふおの心
人もまぐさるんを曲して女の

振舞は意どやまありとく
幻ちお心ゆり
家康在大坂まぐさちありと左
あしぬ侍しそ法退きまふ
かり法籍本ありびし井侍
東政兵を人をもむしあひて
雜念うれしき子余人し大坂
西の丸し入御しし案

石田三成謀略法大名連判の事
并 泉原公一十七ヶ條の題
題中しる事

斯く
在(波)御
御法令執乳
為致して御威え

石田三成子の時謀畧
利家と除きて
西々寺村人并び
の法大名の
内府公は拾七ヶ條の
中しる生約雅樂及
友人執取く
作中らんる是る

腹を切せまゝの用意此
軍乞拾万金騎強集まりて
内府公の口小指ぬぐ見極免
深雲の時良井伴名部少輔を
兼くへ謀るゆきまの申
此鴻は引退せし終手塔を
しそこの良は弟強を以て
是方より依名の撤り
入御

石田が謀畧又々むろく亦
は時柳原康政園東より来りて
いづれ堅固ありむろく
井伴柳原が軍功徳人の及
ぶところあり

去る三回く只幕風のごとく
まぶしく調略を協力の系と
張が如く彼方けり

白くして故能^{せう}はらるるはくはくは
武徳^{ぶとく}真心^{しんしん}多^{おほ}実^{まこと}ふ唯^{ただ}風の吹
おろく一^{ひと}塵^{ちり}吹^ふやぐる是^{こゝろ}の
軍法^{ぐんぽう}なりくまて平^{へい}生の
人も個^{ひと}略^{りやく}して破^{やぶ}きする時^{とき}の
手^て所^{ところ}を空^{くう}しく換^かえ多^{おほ}
一^{ひと}念^{ねん}は一旦^{いつたん}故^こ能^{せう}はらるるも
換^かえてやぐるあれたる平^{へい}生^{せい}

よてもそのまうにまへま
あがりこのまびの石^{いし}田^{でん}謀^{ぼう}略^{りやく}
城^{じやう}をのま
嘉^か康^{やう}公^{こう}とそふあやう
まごも元^{もと}来^{らい}篤^{とく}実^{まこと}の
御^ご名^な將^{しやう}ゆくのまびれ
以^も危^{あや}難^{なん}城^{じやう}のまらあ
まごも石^{いし}田^{でん}まらまの

のちうねを大勢此大
名こくくく連去して
お加王の今おしよそ
堂も通るは名を飛り
倉一結る千減之せし
あればこそ運械の名の
といふは仕負せし
まじりて又名譽此名

城あるべき之を角
東恩宮此所運強く又
骨も健しし実義の
人多く有故に利運の
事及理といふ又
所名得るれば之

新
の西丸千以爲りて天下此
家康公多大板城

仕舞の袖の下よ出所武徳も
警んあらに依て月々に清威光
増長せり去れば姫路の天下此
將軍藏も取り玉りん清勢
布ひ形然より大坂宗廟の片
等そ身くくちくく此ふ是の
知く清威光の盛んなるは姫
みそねももあく那心をさし

ちさむこの時をめんか
石田三成を景平のり候と
徳大名城領の心願
家康公は十七ヶ條此難題を去
く其今西丸と小堀よりて
居玉の城さるる心平討奪の
心と評定は徳大名大り
同心の時より前田利家も我々の

徳候の君備を初着を又
は唯秀頼の後見ありと
支言に接ひありて判形
又行柄市正の初至の内
南村の飛の候定むるに
をばとて若く同きあり
大旨を陸の眼病一は盲
とれば双方に義備を交

貞とて改りたり清野長政中
村一氏の友人を彼とれ扱
るるといふ有様あり
今ハもや肉とてそのお海

肉層公は肉通はる事
也是也もる記次あり
同之れめんくまの毛利輝元

浮田秀家 全谷秀秋 破年秀
 信 瑞 瑞 瑞 瑞 瑞 瑞 瑞
 川長 長 長 長 長 長 長 長
 警 警 警 警 警 警 警 警
 秋月 寛 伴 友 相 良 茂 茂
 小川 久 田 小 野 木 山 崎 照 坂
 大友 立 花 後 友 平 塚 赤 部
 全三拾二拾 神文 連判 一 一

軍兵拾万餘騎あり
 内府公よりこの時小野より
 大坂の御免し竹内よりありも
 御く居る向うとありしに在り
 拾七ヶ条の書立して其使者
 城の川の中を建ちし御より
 矢銃炮等おびしとありしに
 矢銃炮等おびしとありしに

今大坂中 鞆^{たづな}の山^{やま}に ちま^{ちま}こと
あ^あら^らる^るる^る 終^{はつ}初^{はつ}の^のり^り 叔^{しよ}十七^{しち}ヶ^が條^{じょう}
の^の次^{つぎ}を^をも^も

一 様^{さま}御^ご門^{もん}の内^{うち}を^を 業^{わざ}專^{せん}の^の級^{きゅう}を^を
御^ご一^{いつ}と^と却^{かへ}る^る 秀^{ひで}頼^{より}の^の級^{きゅう}を^を
千^ちせ^せら^らる^る 者^{もの}の^の事^{こと}

一 太^{たい}閤^{かく}御^ご在^{ざい}世^{せい}の^の時^{とき}を^を 天^{てん}下^げを^を
御^ご政^{せい}事^じの^の又^{また}老^{らう}五^ご年^{ねん}の^の連^{れん}

判^{はん}を^を以^もて^て 名^な斗^とを^を 延^{えん}可^か
高^{たか}村^{むら}と^と 野^のり^りて^ての^の
徳^{とく}川^{がわ}殿^{でん}の^の判^{はん}を^を 名^な扱^{あつ}ひ
の^の事^{こと}

一 徳^{とく}川^{がわ}殿^{でん}御^ご内^{うち}の^の徳^{とく}大^{だい}名^なに^に加^か増^{ぞう}
或^{ある}は^は 大^{だい}閤^{かく}御^ご中^{ちゆう}陰^{いん}の^の内^{うち}に^に
徳^{とく}川^{がわ}殿^{でん}の^の名^なを^を 以^もて^て の^の事^{こと}
修^{しゆ}成^{じやう}の^の事^{こと}

一、近江此知新関東小西く

あるのころありしころく
没収致さるる此条金く逆心

空おんせら車

一、山列八樓山は一百石の社願

越壽附のり并く深泉

の宗廟と山崇めらるる此条

あり多敷車

一、太閤立至れり五老も

徳川殿御願介少くは五老

や唱へ徳川殿をた

内府公と唱へし秘事の

山下知守の徳人の定めり

し今さるる世とお互

しや心なる秘事

相州新関を居て

徳川度の由り第と記して性来
新實自由ありしむる
の条より亦被是不審の
事

右の御程より十七ヶ条取所く
支人の若十一月十六日御度正
来り申上の程のむきより右連判
の法大名中
家康公は不

志んかくれどその
法に於て大に御修あり明朝
より又と返答ありあり是
るるよおのくこの連判の者
百之拾人の手替拾万五人
明朝御一考七中べこの条由
法被取らんべく此御是悟ある

倉しと手切しの口上あり信
やうに作を政宗降酒架家政
へも使者とゆひく上意成
竊ひたてまうとこの処
この城あり徳川度と
福徳を掃手子法なる此
条とてあらざる城ありと一世
一代の浮沈をりし入色あり

此目をもや未の事刻と及び
て支使をゆりたり
油清

関ヶ原軍記初編巻の八終
油清

